

ワーク中心

プログラム番号 2402E

ディープラーニングに誘うアクティブ・ラーニングの手法

■講師

立川 明（高知大学 大学教育創造センター 准教授）

2004 年 4 月より大学教育創造センター所属。各種 FD の企画・実施，オンライン学習支援システムの企画，改善，登録情報の更新を担当。

2007-2008 年農学部と協力してアクティブラーニングを取り入れた情報リテラシー教育の改善を行う。2008 年より化学の授業に TBL の手法を取り入れ，授業参観の受け入れや教授法の研修を行う。2009 年より SPOD フォーラム研修担当講師を務める。

高知大学の Tips 集を執筆。2017 年，オープンコンテンツ「アクティブラーニングの手法」を公開。

■プログラム概要

口頭で教える方法で，学生は実力を付けていますか？期末試験で良い成績をとれるのは，一夜漬けのおかげです。その知識，次の年度の授業ではもう忘れていませんか？

長く記憶に残る知識になるためには理解を伴うこと，アウトプットの機会があること，反復の機会があることが重要です。この研修では，高知大学で行っている化学の授業を例にアウトプットを中心にした授業方法を紹介し，ディープラーニングに誘うための参加型授業に必要な要素を紹介します。

以下のような内容をワークとレクチャーで行う予定です。

1. 初回の授業で何をすべきか
2. 授業の組み立てはどのようにすべきか
3. 試験紙法を体験する
4. 教員が注意すべき事は何か

■主な受講対象

- ・学生の成績を上げたい教員。
- ・知識を蓄えながら同時に様々な能力開発をさせたい教員。
- ・学生に能動学修をさせたい教員。
- ・教員になりたい学生に講義以外の授業法を体験させたい教員。

■本プログラムの到達目標

1. アクティブ・ラーニングのための場づくりができる。
2. 失敗しないアクティブ・ラーニングの要素が言える。
3. 試験紙法とは何か同僚に説明できる。

■日時・場所

日時：平成29年8月24日（木）13：00～15：00

場所：徳島大学常三島キャンパス